

説明医師

説明看護師(外来)

看護師(病棟)

様へ

月日	月 日		月 日	
経過	当日術前		当日術後	
目標	心身ともに安定した状態で手術を受けられる 治療に対する不安を表出できる		術後合併症を起こさない (出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、腸閉塞)	
検査	身長、体重測定		 採血  レントゲン撮影	
食事	 絶飲食		医師が食事再開時期を判断 (  ) (  )	
処置・観察	リストバンドを装着します (退院日まで)  点滴の針を留置します   時間になれば、看護師が手術室にご案内します	手術後以下の挿入物、装着物があります ・酸素チューブ → 取り外します ・心電図モニター → 取り外します ・点滴の管 → ・創部の管(ドレーン) → ・尿道カテーテル → 取り外します  創部を観察、処置を行います	 状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります	
注射・内服	 持参薬、お薬手帳を看護師にお渡しください	 以下の点滴を行います ・持続点滴 → ・抗菌薬 →		
行動・リハビリ	 以下の手術準備をします ・手術着に着替え ・入れ歯、アクセサリ、時計等の取り外し	 制限はありません	 翌朝までベッド上安静です	 午前中 全身清拭し、手術着からパジャマに着替えます   歩行を開始します   尿道カテーテル抜去後はトイレで排尿できます
説明	 医師・麻酔科医より説明(外来又は入院時) ・治療計画について ・手術について ・麻酔について   病棟・手術室看護師より説明 ・入院生活について(パスシートを使用) ・手術について   薬剤師より説明 ・持参薬確認 ・使用薬剤について	 医師より説明 ・手術結果について   看護師より説明 ・術後の注意点について ・安静について ・下肢運動について ・痛み止めの使用方法について		

\* 入院に際してこの用紙を必ずお持ちください。

\* 入院時に栄養状態を評価して栄養管理計画を立てます。また、定期的に栄養状態の再評価を行い、計画を見直します。

\* この表はおよその経過をお知らせしたものです。種々の都合により、予定通りではないこともありますので、予めご承知ください。

月日	月 日	月 日	月 日～ 月 日	月 日								
経過	術後 2 日目		術後 3 日目	術後 4～6 日目	術後 7 日目 (退院日)							
目標	術後合併症を起こさない (出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、イレウス) 合併症予防のためリハビリ (歩行訓練、呼吸訓練) がおこなえる											
検査	 採血  レントゲン撮影		 5 日目 採血  レントゲン撮影									
食事	医師が食事再開時期を判断			退院日は朝食のみ								
												
処置・観察	以下の挿入物があります ・点滴の管 → 点滴が不要となれば抜去します ・創部の管 → 状況を見て抜去します   創部を観察、処置を行います →				退院時にリストバンドを外します							
	 状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります											
注射・内服	 以下の点滴を行います ・持続点滴 → ・抗菌剤 →											
行動・リハビリ	 状況に合わせて、看護師が全身清拭、洗髪、足浴します   制限はありません			 創部の治癒状況に合わせてシャワー浴を再開します (週 3 回、病棟毎で日が異なります)						 (退院日) 朝食後退院です		
説明										 医師より説明 ・退院後の治療計画、療養上の留意点について   看護師より ・退院後の療養生について (退院療養計画をお渡しします)		

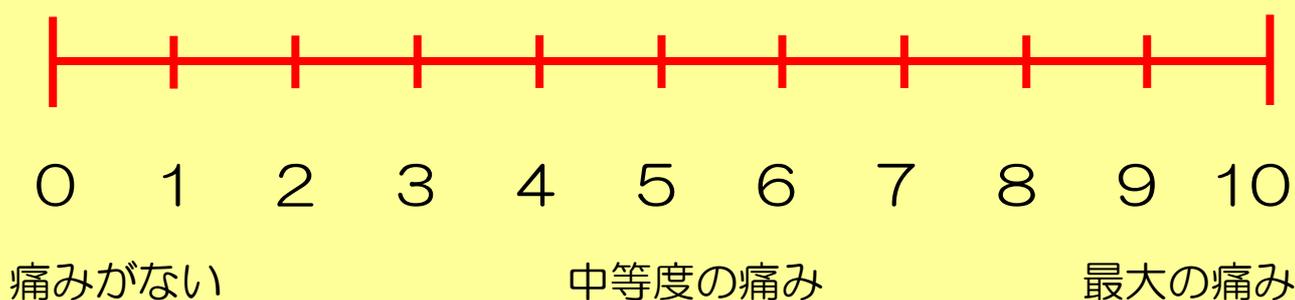
## 手術後の傷の痛みを教えてください

講習を受けた麻酔科医・看護師・薬剤師・臨床工学士で構成された術後疼痛管理チーム（APS）チームが、患者さんの傷の痛みに対して、手術前から計画を立て、傷の痛みが軽減するよう取り組んでまいります。

実際の傷の痛みに対して、NRS(Numerical Rating Scale)：痛みの評価スケールを使用します。0 から 10 までの 11 段階です。

👉 **手術後、どの程度の痛みかを数値で教えてください**

10 を最大の痛みとした場合  
今の痛みはどのあたりですか



APS チームがサポートします。

よろしくをお願いします。

